目次

はじめに……1
第一章　日米「イコール・パートナーシップ」の生成　一九六〇―六二……13
第一節　池田政権の発足……13
1　逆風のなかでの出発　13
2　池田内閣の「新政策」　16
（1）保守支配貫徹のために／（2）「自由主義陣営の一員」としての国際的地位／（3）中立は「幻想」である
第二節　「自由主義陣営の一員」としての信頼回復……24
1　日米関係修復の試み　24
（1）燻る日本中立化への懸念／（2）小坂訪米
2　岐路としての第二九回総選挙　27
（1）日本外交の岐路――総選挙の意義／（2）審判の日
第三節　池田＝ケネディ会談と「イコール・パートナーシップ」……29
1　ケネディ政権の対日政策　29
（1）ケネディ政権のアジア戦略／（2）覚めない日本中立化の〝悪夢〟

第二節　反共政策としての「ビルマ重視路線」……121
1　「ビルマ重視路線」の萌芽　121
(1) 矢口大使の進言／(2) ビルマの対日姿勢／(3) アウン・ジー来日
(4)「ビルマ重視路線」の背景
2　東南アジア訪問　130
(1) ビルマを自由主義陣営に引き寄せるために／(2) タイ特別円問題の解決／(3) 東南アジア訪問の意義／(4) 反共外交の陥穽——カンボジアの反発
第三節　冷戦のなかの日緬「特殊関係」……142
1　対ラオス経済援助の実施　142
(1) 防衛線としてのメコン河／(2) ブーマ来日と対ラオス経済援助
2　賠償再検討問題の決着　145
(1) チャンスの拡大——ビルマの軍事クーデター／(2) 日緬経済技術協力協定の成立／(3) アウン・ジー解任の衝撃
3　ビルマをめぐる日米英関係　153
(1)「ビルマ重視路線」と日米関係／(2) すれ違う日英
4　「ビルマ重視路線」の意義と限界　161
(1) 日緬「特殊関係」と日本の国際的地位／(2) メコン河の脆弱性／(3) ビルマの行方／(4) 不十分な日米英の協力

第四章　東南アジア反共外交の停頓　一九六三―六四……183
第一節　「大国」日本の試練――東南アジアの危機とアメリカの対日要求……183
1　高まるアメリカの「負担分担」要求　183
（1）厳しさを増すアジア情勢／（2）「主要同盟国」日本への期待／（3）日本の情勢判断と対処方法
2　東南アジアの二つの危機　190
（1）マレーシア問題の始まり／（2）緊迫するベトナム情勢
第二節　スカルノ「善導」論の挫折……192
1　インドネシアへの関心　192
（1）マレーシア問題への初動／（2）幻の「五カ国首脳会談」構想／（3）スカルノ「善導」論の展開／（4）アジア大洋州諸国訪問の成果
2　インドネシア＝マレーシア紛争への仲介　201
（1）日本の仲介案／（2）イギリスとの対立／（3）硬化するアメリカの対スカルノ姿勢／（4）スカルノ「善導」論の挫折
第三節　ベトナムをめぐる相克……209
1　アメリカへの支持と疑念　209
（1）軍事介入への懸念／（2）追加支援への躊躇／（3）かすかな光――ジェム政権の崩壊

2　ベトナム情勢の悪化と日英仏関係　216
（1）ベトナム中立化をめぐる日仏の軋轢／（2）中仏国交樹立と日本
（3）深まらない日英対話
3　トンキン湾事件と対南越緊急援助　227
（1）揺るがぬアメリカへの支持／（2）対南越緊急援助の実施
おわりに……251
あとがき……263
主要参考文献一覧
索　引